

過去問の傾向と予想 (各問の上を書いてある点数は一般的な目標得点です)

回数	2問	3問	4問	5問	合格率	CMC率
133	14点 伝票→元帳→仕訳日計表 ボリュームが多いので12点でよし	14点 本支店会計 損益計算書は確実に取る 本支店の各利益や支店は×	18点 本社工場会計 本店側と支店側だが簡単	16点 個別の仕掛品勘定と売上原価 計算 仕掛品勘定はとろう	47.6%	
134	10点 銀行勘定調整表 現金は少し難しいが当座預金関連は比較的簡単	14点 精算表 売上原価a/c迷うかもしれませんが、他は比較的簡単	16点 C/R・P/L 差異がらみで4点失点までは可	12点 直接原価計算 第2期は少し難しいが、第1期関連は比較的簡単	13.9%	
135	9点/18点 減価償却費 建物と減価償却費は確実に とろう	16点/22点 精算表	12点 部門配賦表 やはり差異がキーか	16点 標準原価計算だが、製造間接費だけ問われたので厳しかったか 全経1級してればOKだった	22.5%	
136	16点 伝票→元帳→仕訳日計表 シンプル満点も狙えた	18点 本支店会計 非常にシンプルな問題 満点も	16点 費目別の仕訳 差異外しても16点	10点 直接原価計算 132回と134回の過去問しっかりしていれば予定配賦以外はいける はずだが...	41.6%	
137	16点 銀行勘定調整表 134回よりも簡単 準備できていたはず	14点 損益計算書 利息や減価償却は難しいが部分点は狙える	16点 C/R・仕掛品a/c やはり差異の扱だけ	16点 組別総合原価計算 P/Lで失点しても、減損もないので16点はいける	34.6%	
138	12点 株主資本等変動計算書 仕訳は簡単、一度でも見ておけば	12点 貸借対照表 月次処理や前払い費用、返品未処理など難解な問題多 かった	16点 個別原価計算の仕訳 製造番号3つなので簡単 1-4は確実にとろう	16点 単純総合原価計算 本当は満点といたい ただ、2,3問で慌てっていると失点しそう(仕損の取扱い)	26.4%	
139	14点 固定資産 簡単な問題、落としても問6と記帳だけ	14点 貸借対照表+各利益の算定	18点 部門別原価計算 予定配賦と差異分析を押さえれば絶対に解ける	18点 直接原価計算(CVP分析) 非常にシンプルな問題。できれば満点欲しい	21.8%	
140	20点 伝票 非常に簡単な伝票問題です。確実に満点が欲しいところ です	12点 損益計算書 ここ最近と同様、問われ方が難しくなっており、月次などの 実務を意識した内容が増えています。ただ、138,139回を復 習すれば取れる問題もあるので、取捨選択が大事です	18点 標準原価計算 本来は満点と書きたいところですが、最後の利益を失点して も18点は取れますね	20点 等級別総合原価計算 過去問の復習で十分に満点が取れる問題でした。	34.5%	
141	10点 有価証券 基本的な論点だが、金額の大きさや帳簿転記に戸惑った受 験生が多かったようです	16点 精算表 138~140回に比べて非常にやさしい問題。満点も狙えた内 容	16点 本社工場会計 (5)の製品への振替の表現に戸惑うが、(1)から(4)は楽	20点 CVP分析 テキストの基本問題レベル 10分程度で満点を取りたい	11.8%	
142	10点 株主資本等変動計算書 問われ方が特徴的なので戸惑った受験生は多かったでし ょう	14点 貸借対照表 138~140回の難易度に戻った感じです。ただその3回分を 実施していれば14点は確保できた筈です	16点 標準原価計算 差異分析と記帳の基本的な問題 これは満点が欲しい問題	16点 工程別総合原価計算 これも基本的な問題。満点が欲しい問題	14.8%	
143	10点 固定資産 本試験では台帳部分是对应難しかったはず。前半部分で10 点確保	16点 損益計算書	16点 個別原価計算→月次PL 差異分析	16点 標準原価計算 差異分析中心(一部帳簿価額)	25.8%	
144	10 売上処理一連	16 精算表 的中	18 個別原価計算勘定記入 的中	18 単純総合原価計算 的中	13.4%	
145	株主資本等変動計算書	貸借対照表 的中	部門別原価計算 的中	全部原価計算と直接原価計算 的中	25.0%	
146	銀行勘定調整表 的中	精算表 的中	標準原価計算 的中	単純総合原価計算(仕損) 的中	47.5%	
147	問1:合併、問2:連結 仕訳 半的中	損益計算書 的中	費目別(材料・労務・間接費)仕訳 的中	標準原価計算(仕掛品・PL) 半的中	21.2%	
148	有価証券	連結精算表 的中	個別原価計算 的中	組別総合原価計算 20%的中	29.6%	
149	有形固定資産と外貨 70%的中(第1,2予 想)	本支店会計の本店の処理 的中(第1予想)	仕掛品勘定と損益計算書 70%的中(第1予 想)	工程別総合原価計算 的中(第2予 想)	15.6%	50%
150	有形固定資産(第3予想)、税効果(想)予想、連結(第2予 想) 60%的中(第1,2,3予 想)	貸借対照表(第2予想) 的中(第2予想)	個別原価計算の仕訳(第2と第3の残)バッチリ 的中(第2,3予 想)	CVP分析(第1予想) 的中(第1予想)	14.5%	50%

<151回予想> CMCは3点予想にこだわります

	2問 ^(想)	3問	4問 ^(想)	5問
本命	問1:(手形+電子記録債権)貸倒引当金 問2:有価証券の総合問題(期末評価は要注意)	サービス業+商品販売業のPL(検収基準などは注意)+株主資本等変動計算書(一部)	部門別計算(予定配賦率計算と差異分析も)	標準原価計算勘定記入も確認しておこう(パーソナル・シングル)(差異分析関係します)
該当講座	無料で学べる日商簿記2級講座(商業)01手形 新論点#1-2(電子記録債権)#2-4(外貨取引)無料で学べる日商簿記2級講座 無料で学べる日商簿記2級講座(連結会計)+サンプル問題	新論点#1-3(役務)無料で学べる日商簿記2級講座 サンプル問題6	無料で学べる日商簿記2級講座(工業)05部門別計算	無料で学べる日商簿記2級講座(工業)13標準原価計算 無料で学べる日商簿記2級講座(工業)13-2標準原価計算 無料で学べる日商簿記2級講座(工業)99標準原価計算
対抗	消費税と法人税の一連の流れ 消費税の差額精算(雑勘定)も注意 <税効果会計(その他有価証券含む)も>	製造業の貸借対照表&一部PL(サンプル問題15) PL問題は工業簿記か?	本社工場会計(仕訳) 本社側と工場側の両建ての可能性も 材料費・労務費・間接費	組別と等級別総合原価計算の比較問題(137回の問題がベース) 単純の場合は材料の追加投入(平均と終点)、仕損の評価額はしっかり確認しておいてください
該当講座	無料で学べる日商簿記2級講座(商業)10法人税と消費税実務ワンポイント 新論点#2-2(課税所得)無料で学べる日商簿記2級	新論点	無料で学べる日商簿記2級(工業)12 解答速報第141回(4問)	無料で学べる日商簿記2級(工業)08等級別原価計算 無料で学べる日商簿記2級講座(工業)09組別計算
大穴	問1:銀行勘定調整表(現金過不足も) 問2:理論穴埋め(サンプル問題確認)	連結精算表→発展でPL・BS(アップストリームは捨て問)第1問のみ対策	製造原価報告書と仕掛品勘定	直接原価計算と全部原価計算の比較念のためCVP分析も少しだけ
該当講座	解答速報第143回(2問) サンプル問題4、5	サンプル問題9~12 過去問第148回	解答速報第137回(4問) 無料で学べる日商簿記2級(工業)11 財務諸表	無料で学べる日商簿記2級(工業)14.15 直接原価計算 無料で学べる日商簿記2級(工業)13 CVP分析

「予想の下の動画はすべて無料で視聴できます」↑ ※サンプル問題は日商HPにあるので、解かれると良いでしょう。 <https://www.kentei.ne.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/boki2-sample2.pdf>

<出題の意図><2級受験のポイント>を踏まえて
4問・5問で最低80%を取ろう→今後もこの傾向はかわらないという事。特に第4問の予定配賦をしっかりと押さえておくことが、標準原価計算にもつながるので大事です。
「予想に頼らず」が強調されています。当スクールが以前から強調しているように、専門校の予想頼みにせず、まんべんなく学習する事が大事です。
この予想は時間のない方の最後の頼みの綱としてご利用ください。

次に日商の許容勘定科目表を1回はみておき、気になる科目はネットで検索しておきましょう。
それだけでも、当日の科目をみてもパニックにならずにすみます。

試験対策ですが、本来は予想に頼らず、全範囲の論点をしっかり押さえる事が先決です。あまり時間はありませんが、商工会議所が公表しているサンプル問題は実施しておく方が良いでしょう。サンプル問題3(理論問題)は必ず確認しておいて下さい。商業簿記に関しては過去問5回分をしっかりと実施しましょう。商業簿記は過去問からの出題が多く、新論点以外でも70%は確保できるはず。上記の2問、3問対策をしっかりと実施すれば、商業簿記全般(仕訳含む)の得点をUPする事ができます。
連結会計はサンプル問題9を題材にフリーテキスト講座(約3時間)見ておいて下さい。さらに問題12のSS以外の内容を確認しておけば、精算表でもFSでも大丈夫です

新論点に関しては、第1問から3問のいずれでも問われる可能性があります。難問は可否には影響しないので早めに捨てる決断が大事です。

第3問で本支店の合併FSや連結FSが出題されたら、最悪は足し算だけして解答用紙に書くという手もあります(149回のような本店単独や支店単独は通常の処理と同じです)点数は稼げるはず。第4問の本社工場でFSの可能性もありますが、通常の問題とかわりません。資料の与えられ方でパニックにならないようにして下さい。

仕訳問題は148回のリース債務の計上に関して、「出題の趣旨」では「売上げの問題、残高を掛けとしたと同様なので簡単」と記されていましたが、そんな事はないでしょう。難しい表現の問題にはあまり付き合わない方が無難です。
仕訳問題で気になるのは、返品調整引当金やアップストリームの連結です。少し気にしておいて下さい→(返品時は引当金の消込と原価分の新たな仕入<再販できるから>

製造業の財務諸表はPLやCRは工業簿記の範囲なのでBS問題が主流かと思われます。ただ、将来的には財務諸表は第3問が担当し、第4問は仕訳・勘定記入中心、第5問は原価計算中心にする可能性もあると思います。その場合は第3問での製造業PLの可能性もあるかもしれません。ただ、第3問・4問ともに製造業の財務諸表を出すことはないと思います。